

丹波山村 下水道事業経営戦略【概要版】①

1. 改定の趣旨及び計画期間

人口減少に伴う収入減や将来の施設更新需要への対応の課題が顕著になっており、将来にわたって安定的に下水道事業を継続していくためには、中長期的な視点で事業経営を行う必要があります。令和元（2019）年度に下水道事業の戦略を策定しましたが、当初経営戦略策定から5年が経過し、経営基盤強化と財政マネジメント向上の柱と位置付けるものとして、PDCAサイクルを通じて投資・財政計画の見直しが必要であることから、今回、一層の内容の充実化を図った下水道事業経営戦略に改定しました。計画期間は、令和7（2025）年度から令和16（2034）年度の10年間とします。

2. 事業概要

本戦略の対象となる事業は特定環境保全公共下水道事業及び小規模集合排水処理事業の2事業です。本村の特定環境保全公共下水道事業は現在から約40年前、昭和62（1987）年に供用を開始し、小規模集合排水処理事業は現在から約30年前、平成9（1997）年より供用を開始しており、本村の各世帯における水洗化は概ね完了しています。

3. 今後の予測

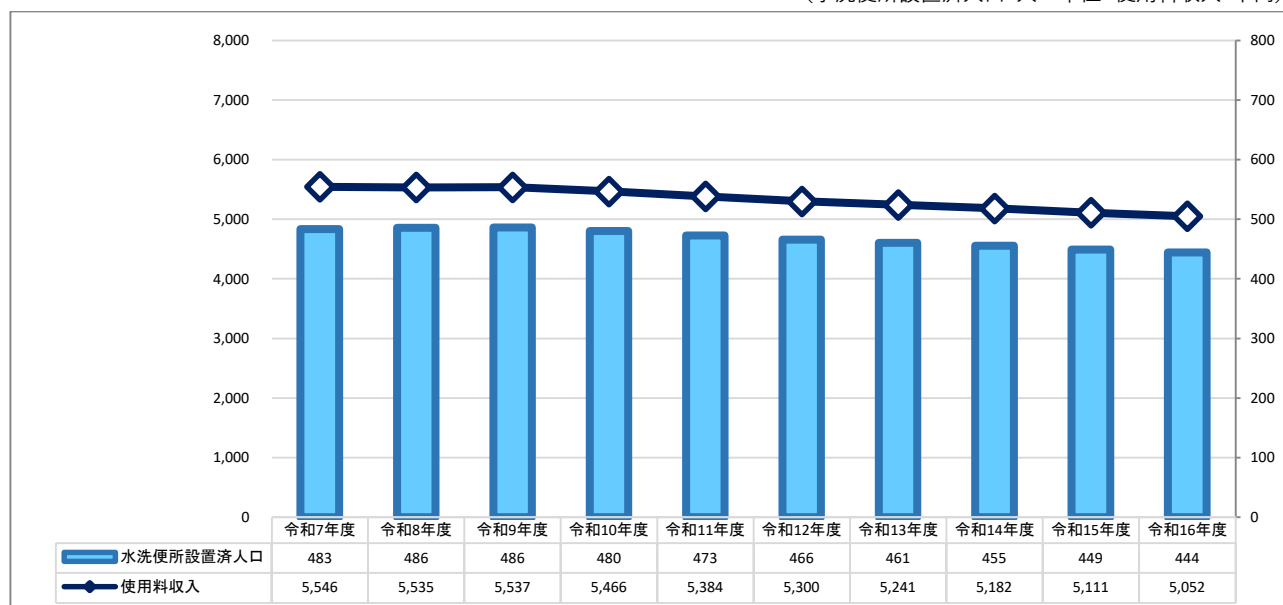
使用料収入の予測

使用料収入は、令和9（2027）年度以降、水洗便所設置済人口の減少に伴い減収していく見込みです。

なお、水洗便所設置済人口の予測は、本村の計画する「移住促進住宅整備事業」により、転入者の増加を見越した数値へ変更しています。

■使用料収入及び水洗便所設置済人口 予測

（水洗便所設置済人口 人 単位：使用料収入 千円）



※特定環境保全公共下水道事業及び小規模集合排水処理事業の合算値

丹波山村 下水道事業経営戦略【概要版】②

4. 基本方針

(1) 他会計繰入金の削減と経常収支比率の向上

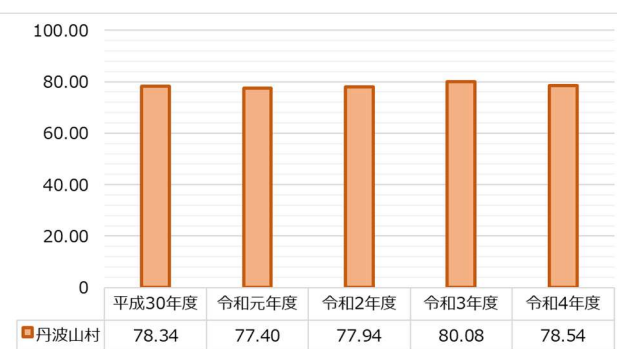
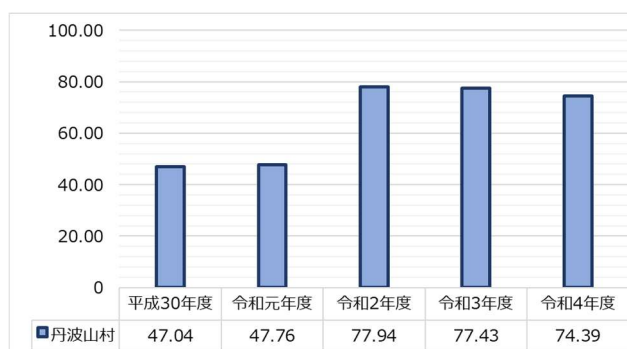
経常収支比率（収益的収支比率）は令和4（2023）年度決算現在100%を下回り、収支は赤字となっています。また、経常収支比率は一般会計からの繰入金等の収益も含まれているため、公費負担分である基準内繰入金を除く基準外繰入金に関する部分は、税金の公平性の観点から削減していくことが求められます。基準外繰入金を削減しつつ、経常収支比率を100%以上に推移させるよう収入の増加及び費用の削減に取り組めます。

■特定環境保全公共下水道事業

（単位：％）

■小規模集合排水処理事業

（単位：％）



(2) 経費回収率の向上

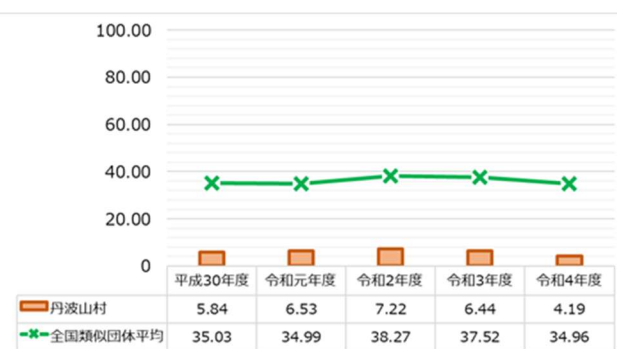
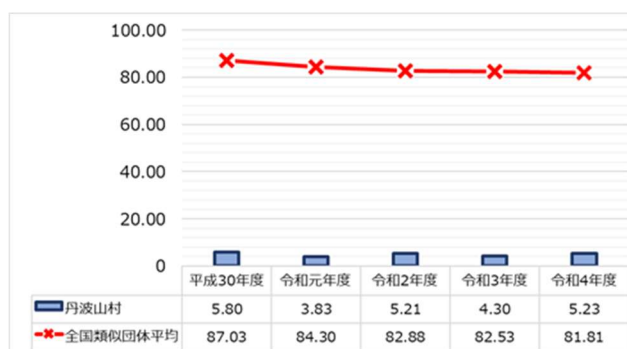
経費回収率は100%を下回っており、汚水処理に係る経費を住民・事業者からの使用料収入で賄えていない状況です。使用料収入の増加及び汚水処理に係る経費の削減を継続的に取り組み改善していきます。

■特定環境保全公共下水道事業

（単位：％）

■小規模集合排水処理事業

（単位：％）



(3) 経営戦略の定期的な見直し

人口減少に伴い使用料収入が減少する一方で、既存施設の老朽化は進み、大規模な更新及び改修工事が必要になるため、今後の施設の更新需要や使用水量、財務状況の検証等を行い、経営戦略においては、原則5年ごとに見直し、改定することとします。また、使用料水準の設定や、使用料改定の時期等が適正となるよう見直しを行います。

丹波山村 下水道事業経営戦略【概要版】③

■経営戦略の見直しスケジュール見込み

計画年次 項目	① 令和7年度	② 令和8年度	③ 令和9年度	④ 令和10年度	⑤ 令和11年度	⑥ 令和12年度	⑦ 令和13年度	⑧ 令和14年度	⑨ 令和15年度	⑩ 令和16年度
経営戦略の改定及び効果測定					改定	効果測定				改定
接続率・設置率の向上に向けた 広報・啓蒙活動	→									

5. 投資・財政計画（シミュレーション）

現状予測に基づく投資・財政計画では、人口減少などによる使用料収入の減少と物価上昇などによる経費の増加で、収支の悪化が予想されます。この課題に対して、改善に向けた投資・財政計画を現状予測値の他、下記のシミュレーションパターンで検討します。

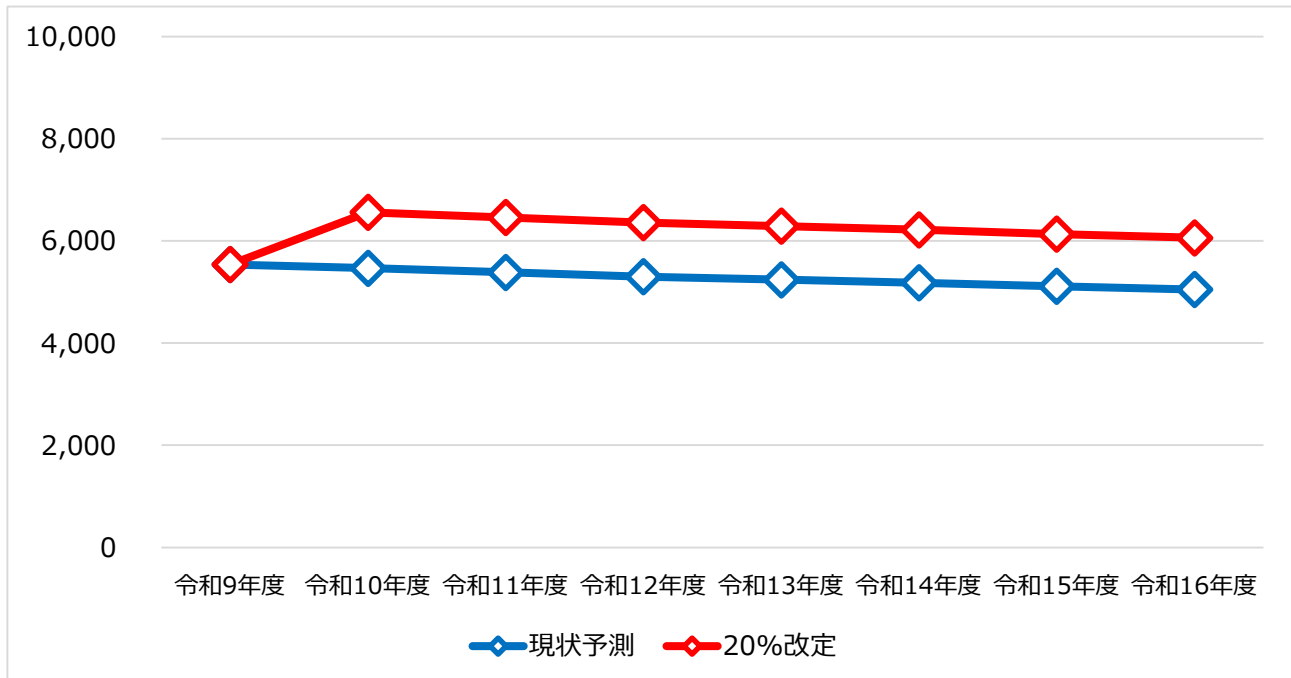
【シミュレーションパターン】 使用料を令和10(2028)年度に **20%改定**

■使用料収入の変動見込み

(単位：千円)

使用料収入（千円）	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度
現状予測に基づく投資財政計画	5,537	5,466	5,384	5,300	5,241	5,182	5,111	5,052
シミュレーション 20%改定	5,537	6,559	6,461	6,360	6,289	6,218	6,133	6,062
増加見込み額	0	1,093	1,077	1,060	1,048	1,036	1,022	1,010

(単位：千円)



【使用料収入のポイント】

令和10(2028)年度に使用料を20%改定した場合、改定後全期間において使用料収入は20%増加しますが、その他の指数に変動がなければ改定翌年度より収入は減少を続けます。

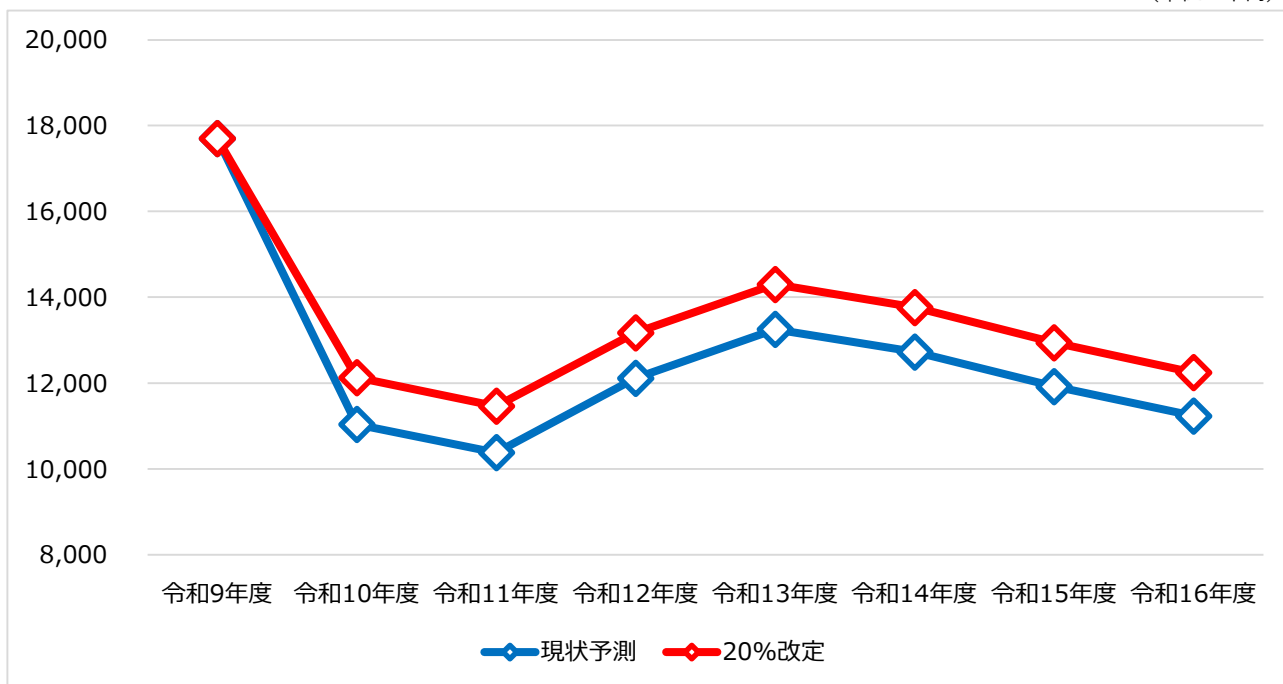
丹波山村 下水道事業経営戦略【概要版】④

■収益的収支の変動見込み

(単位：千円)

収益的収支（千円）	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度
現状予測に基づく投資財政計画	17,700	11,038	10,385	12,113	13,252	12,728	11,921	11,236
シミュレーション 20%改定	17,700	12,131	11,462	13,173	14,301	13,764	12,943	12,246
改善見込み額	0	1,093	1,077	1,060	1,048	1,036	1,022	1,010

(単位：千円)



【収益的収支のポイント】

令和 10（2028）年度に使用料を 20%改定した場合、改定後全期間において収益的収支は 20%改善し、計画期間の各年度において年間約 100 万円収益が増加します。

6. 経営戦略の事後検証

本経営戦略の実行性を確実なものとするために、PDCA サイクルにもとづいた進捗管理を行います。特に計画の見直しに関しては、町内の各課と連携を図り、修繕・更新などの実施状況や劣化状況、財政状況などを評価した上で少なくとも 5 年に一度の頻度で行うものとしします。また、経営戦略の進捗検証を行いながら、将来の経営状況を踏まえ、使用料が適正であるかの評価、見直しを行います。

